

今年の干支は虎年です。聖書にも寅さんが出てきます。士師記 10：1～2 にイサカル族のプアの子で「イスラエルを救うために立ち上がった」と書かれています。トラは「えんじ虫」という意味で緋色の染色の材料です。虫けらのような人でしたが「立ち上がった」と書かれています。この「立ち上がる」はクームで「復活する」という意味です。

このトラさんは、「シャミルに住み 23 年間、士師としてイスラエルを裁いた」と書かれています。が、「士師」とはショフェートというヘブライ語で「裁く」「治める」という意味です。シャミルに住んだと書かれています。が、「いばらの垣」という意味でいばらの人生を生きた人のようです。場所はサマリアのことで、サマリアはイエス様の時代でも「異邦人のサマリア」と呼ばれて差別されていました。士師記の時代はイスラエルが国としてまとまる以前ですから、内部の摩擦でもめごとが多い処であったと思われます。

「男はつらいよ」の寅さんも不思議な人で、次々と恋をするのですが自分の気持ちを伝えることが出来ず、相手の女性が自分に好意を持っていると分かっても愛を告白して自分が幸せになることが出来ないで旅に出て悲しんでいる人や途方に暮れている人を慰め元気づけるのです。自分を幸せにすることに極端に憶病で、人の幸せばかり求めてしまう障碍を持っているように思います。イエス様もフーテンの寅のように旅をして人々を慰め励まして生きたのではないかと「男はつらいよ」を観るたびに思います。遠藤周作の作品「おバカさん」ではガストン・ボナパルトの生き方に遠藤周作はイエス様を重ねているのだと思います。人を愛し、人のことを大事にして自分の事をいつも忘れている姿に我々にはないキリストの生き方を表現したのだと思います。

2022 年がどんな 1 年になるか、私達は分かりません。しかし、イエス様が死んでいた少女の手を取って「タリタ・クム」（少女よ起きなさい）と言われて甦らえなされたように（マルコ 5：41）、また愛する息子の死を悲しんでいる母親を見られ、近寄り棺に手を置いて「若者よ、あなたに言う。起きなさい」（ルカ 7：14）と言われたように、イエス様は今年も私達と共にいて、気落ちして、諦めて、気力さえ失いそうになる時に「起きなさい」と呼びかけてくださいます。私達も寅さんのように欠点の多い人間ですが、自分ファーストで生きようとするのではなく、人々に生きる勇気を与える生き方をしましょう。